

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第612号 2021年2月14日

「神の視点」に立つこと

主任司祭 ミカエル鈴木 真



聖書に出てくる言葉のものと意味を調べると、往々にして日本語訳にはない重要なポイントがあることに、いつも気付かされます。

例えば何かの折に話すことですが、「回心」。日本語では「改心」ですが、この漢字の言葉にしたところに、訳した方のご苦労もうかがえます。元のギリシャ語は〈メタノイア〉で、“視点を変える”という意味だそうです。神さまの視点へと、わたしたちのそれを変えていくこと。よく“生活の一部修正ではなく、生き方そのものを変えること”などとも言われますが、そうすると、ちょっとビビりますよね。では「神さまの視点」とは何か。それは、〈いのちの痛み苦しみに、常に敏感であること〉。そこからこの〈メタノイア〉を「共感」と訳す学者もいます。要するに、神と人へと目を向けること。これは、「罪」と「祈り」という二つの要素ともつながってきます。この二つは行為を表す概念ではなく、「心の状態」である、と言われます。「罪」とは心が神さまから離れている状態、そして、逆に「祈り」とは神さまに心が向いていること。「人間は神の前では、みな罪人」と言われるのは、日本語とはちょっと違うこの二つの言葉の意味によります。わたしたちは祈っているとき以外は、たいてい「罪」の状態にあるわけですね。しかし、自己意識を持っ

て生きているわたしたち人間は、たいてい心を「自分」に向けています。それこそ「罪」の状態、と聖書は言うわけです。そして、だからこそ、わたしたちは、たびたび「神と人」へと心に向け直す必要がある。それを「回心」と言い表したのだと思いますし、教会が「絶えざる回心」の必要を説くのも、その意味です。「改心」だと心は自分に向いたまま…そこからすると、「悔い改め」は誤訳としか思えません(あんまり言うと怒られますが…)。

今年も間もなく四旬節を迎えるにあたり、いつも「神さまの視点」に立ち直し、今、誰が一番痛み苦しんでいるのか、心を自分の外へと向け直したいと思います。

鈴木真師主日ミサ説教

2020年11月15日：年間第33主日A年

マタイ福音書 25章14-30節

『『タラント』のたとえ』は全体が長いので、短いバージョンで読んでもらいましたが、このあと預かった1タラントを土に埋めておいたしもべが主人に叱られてしまう、という話です。

前にも話しましたが、このタラントという貨幣単位は、とんでもないもので、タレントの語源にもなったと言われています。

『聖書と典礼』の注書きにもありますが、タラントンはギリシャの貨幣単位で6,000デナリオンに相当します。1デナリオンが1日分の労働の給料

なので、6,000日分です。乱暴なやり方ですが、わかりやすいように1デナリオン=1万円とするなら、1タラントンは6千万円、2タラントんで1億2千万、5タラントんだとなんと3億円です。そりゃあビビって土に埋めたくもなるよなあ…と思いますが、マタイは人間がそれだけのものを神さまから預けられている、ということを強調します。

ところで、我々司祭は「司祭」というだけで、さまざまな肩書、と言うか役職を背負わされます。今現在、わたしが抱えている役職を数えたら15ありました。かつて20を超えていたときもあります。そのころは、まだ40代で、あまりに多くて、わけわからなくなると同時に、あまりの責任の重さに、しばしば胃が痛くなりました。こりゃ、背負いきれない…。そもそも、わたしが最初に主任司祭になったのは36歳のときでした。忘れもしない24年前、ここ山手の助任だったとき、急な人事だったようで、年があけてから当時の教区長、濱尾司教さんに呼ばれて、「二俣川の主任をやるように」と言われました。えー、二俣川って…そんな大きな教会、こんな若造が主任になっていいのか…と動揺していると、濱尾司教さんは「大丈夫、大丈夫、顧問たちはみんな賛成した」とか言うわけです。無論わたしたちは司教に行けと言われたところに行くわけで、自信なんて全くないながらも「…はい」と答えました。しかしながら、その後の山手での復活祭のわたしの送別会のときに、ポロっと「まあ昔は30代で主任なんて考えられなかったな」とか言っちゃうわけで、おいおい…はしごを外すようなこと言わんでくれ、と思いました。しかし、50歳を超えて改めて実感したのは、何かするのは「わたし」じゃない、働かれるのは常に神さまご自身なのだ…ということでした。「わたし」は、あくまでも、その道具…、司祭になったときから分かっていたはずなのに、その肩書の重さになんかどうしてもしろく自分がいました。

今日の「『タラントン』のたとえ」も同じだと思います。わたしたちに預けられているものは、とてつもないものだけど、それを実際に使われるのは神さま。「わたし」が何かしなければ、と考えると、怖くなって土に埋めたくなくなってしまうのでしょうか。

とはいうものの、今回は横浜雙葉学園の理事長という肩書が回ってきちゃいました。さすがに土に埋めたくなくなったけど、そういうわけにもいきません。…なので、どうぞ、みなさん、お祈りください。わたしを使って、神さまご自身が働いてくださるように。

計り知れないものをわたしたちに託されておられる神さまが、それを使って働かれていることに、共に目を向けることができますよう、祈りたいと思います。

2020年11月22日（日）王であるキリストA年 マタイ福音書 25章31-46節

今日の説教は、「子どもとともにささげるミサ」の代わりとして、子どもたちに向けてお話しさせていただきます。

小学生の皆さん、元気ですか？前からお知らせしていたように、昨日、5人のお友達が洗礼を受け、そしてそのお友達を含めた13人が初聖体を受けました。そのお友達たちとご家族に神さまからの豊かな祝福がありますように、一緒にお祈りしましょうね。

さて、今日は「王であるキリスト」の日曜日です。イエスさまは王さまだ、と言うのですが、イエスさまと「王さま」ってなんだかイメージが合いませんよね。王さまというと、太っていて冠をかぶっていて、豪華な服を着て威張ってる感じですけど、それとは全く逆のイエスさまが何で「王さま」って呼ばれるのでしょうか。実は、ここには聖書における「王さま」という存在の複雑な事情があります。

その昔、イスラエルの国では、長いこと王さまを決めませんでした。神さまこそが王さまだから人間の王さまはいらない、としていたんですね。でも、そのうちに、やっぱり国をまとめる王さまが必要になって、しょうがないから人間の王さまを決めるにあたって、イスラエルの人たちはとっても厳しい決まりをつくりました。国民の誰よりも神さまと人を大切に人じゃなきゃダメ、というものです。でも、いざ人間の王さまが選ばれると、誰もその決まりが守れませんでした。その結果、イスラエルの国は滅びてしまいます。イエスさまが生まれる500年くらい前の話です。みんながっかりしました。でも、

そんなイスラエルの人たちに、神さまはこう言われました。「大丈夫、人間の王はやっぱりダメだったけど、どんな人が神さまの目にふさわしいか、それをすべて示してくれる人をわたしは遣わすよ」そして、イエスさまがお生まれになったんです。そのイエスさまは「あなたたちの中で偉くなりたい人は、すべての人に仕える者になりなさい」とおっしゃって、ご自分でもその模範を示されました。最後の晩餐の時、イエスさまは弟子たちの足を洗いだしたんですね。「足を洗う」のは当時、奴隷の仕事でした。弟子たちはびっくりして、「先生、そんなことしないでください」と言うと、イエスさまは言われました。「あなたたちの先生であるわたしが、あなたたちの足を洗ったんだから、あなたたちもお互いの足を洗い合いなさい」それが「すべての人に仕える」ということのしるしです。そしてイエスさまは、すべての人を救うために自ら十字架を背負いました。だから、今日の福音の箇所にあるように、イエスさまは言われます。「わたしの兄弟である、この最も小さい者の一人にしたことは、わたしにしてくれたことなのだ」。そんなわけで、すべての人の救いのためにご自分をおささげになったイエスさまを、聖書では「この方こそが神さまの目から見た本当の王さまだ」とするんですね。

「イエスさまこそが本当の王さま」ということを思うと、わたしは二つのことを思い出します。一つは中学1年生になったとき。わたしは鎌倉市立第一中学校というところに入りましたけど、毎朝、学校に行くと、必ず一人のおじさんが校門のところまで掃除をしていました。用務員さんだと思っていたら、実は、その人は校長先生でした。あとから聞いたら、その校長先生は、毎朝誰よりも早く学校に行き掃除をしていたそうです。すごいですね。

もう一つは、司祭になるための神学校というところに入ったときのこと。神学校に入学した日、荷物をたくさん抱えて階段を上っていたら、一人のおじさんが壁にペンキを塗っていました。ペンキ屋さんかと思ってその横を通り過ぎようとしたら、その人が振り向いて「やあ鈴木君、いらっしゃい」と言ったんです。よく見ると、その人は神学校の校長先生で

した。いやあ、なかなかできることじゃありませんね。

わたしたちも、イエスさまがおっしゃったように、すべての人のお手伝いができるように、それも、最も困っている人を助けることができるように、神さまの助けを願って祈りたいと思います。

2020年12月6日：待降節第2主日B年

マルコ福音書 1章1－8節

毎年、待降節の第2・第3主日は、洗礼者ヨハネに関する箇所が読まれることになっています。救い主到来の準備のために遣わされた洗礼者ヨハネに目を向けることで、わたしたちも主の降誕に向けての準備を意識しよう、ということです。

「洗礼者ヨハネ」という存在に目を向けると、ちょっと謎めいているということもあって、色々なことを思います。

マルコ福音書は、あまり多くを語りません。今日の箇所の次に出てくるのは、なんとヘロデに首を切られてしまうところ…。ルカは洗礼者ヨハネがイエスの親戚…と位置付ける割に、マタイとルカは共に、牢に入れられたヨハネが「来たるべきお方はあなたですか？」と弟子に聞かせています。ヨハネ福音書にいたっては、洗礼者ヨハネ自身に最初から「わたしはこの方を知らなかった」と言わせます。

つまり、〈知らない人のために準備をした〉…これも洗礼者ヨハネを見るうえで、大きなポイントでしょう。それって、すごいことだよなあ…とも思いますが、よくよく考えてみると、実はわたしたちも同じなのかもしれない、と感じます。どういうことかと言うと、今、自分がしていることの意味、それをわたしたちは分かっているつもりでやっていますが、実は意外なところにそれがつながっていく…つまり、本当の意味は、あとで明らかにされる、ということです。その意味では、わたしたちも往々にして〈知らないことのために準備している〉、いや〈させられている〉のかもしれない。

語り草にしていることですが、わたしは学生の時、教職課程を履修しました。別に教師になろうと思ったわけではなく、「教員免許くらい取っとくか…」といった程度のものでした。ところが教育実習

に行ったとき、なぜか「これは違う」とはっきり感じました。どうしてかは分かりませんが、「この道に行けとは言われていない」と感じたんです。もともと教師になるつもりもなかったのに、当然、教員採用試験も受けませんでした。なのに…そんなわたしを神さまは、司祭としてカトリック学校に長年送り込み、果ては理事長までやれ…と。「神さま、一体どういうことですか？あの時の『違う』は何だったのですか？」と言いたくなりますが…違う見方をすれば、今の自分に神さまがすべてをつなげておられた…とも言えます。

人生何が起きるか、本当に分かりません。でも、これから起きる何かのために、神さまは今の「わたし」をここへ、と遣わされているのでしょう。願わくば首を切られるのだけは勘弁してほしいですが、洗礼者ヨハネに目を向ける中で、わたしたちの「これから」の中にも働かされる神さまのわざに、しばし心を向けつつ、共に待降節を過ごしていきたいと思えます。



鈴木師主日ミサ司式

(撮影：編集部 土方芳人)

新成人の祝福

1月10日(日)11時30分ミサ直後に、主任司祭・鈴木真師司式による「新成人の祝福」が行われ、参列していた信徒が新成人を祝いました。

鈴木師はミサ冒頭で「主の洗礼の祝日を迎えました。わたしたちがいただいている洗礼の恵みを改めて思い起こし、感謝いたしましょう。また、今日このミサの後で、今年、成人式を迎える方々の祝福をいたします。成人としての歩みを始める方々と、そのご家族の上に神さまからの豊かな祝福がありますよう、共に祈りたいと思います」と話されました。

また、ミサの共同祈願で「成人の祝福を受ける若者たちが、心に呼びかける神のことばを聞き、それぞれに示される道を、希望をもって歩むことができますように」と、心を合わせて祈りました。

そして、式典の最後に、司祭から記念品として一人ひとりに祝別された聖書が手渡されました。

今後、山手教会共同体のために、若者らしく積極的に行動されることを期待しています。

以下の方々が式典に参加者されました。(敬称略)

ミカエル

角 賢太郎

フランチェスカ

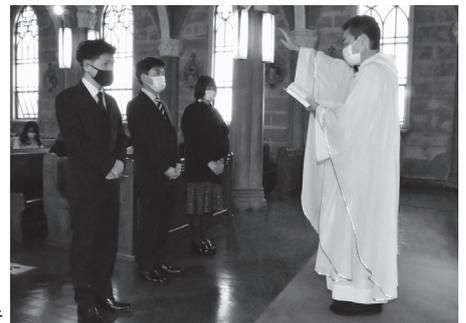
山田 ゆずか

ヨゼフ

小松平 真聖



聖書の祝別



按手



聖書のプレゼント



自己紹介



鈴木師とともに

(編集部 土方芳人)

ミサ案内を担当して

コロナ禍の下でのミサ案内に関し、私共の日頃の奉仕の内容を以下のとおり紹介させていただきます。

コロナ禍の中、2度目の緊急事態宣言を受け、山手教会の主日ミサは再び無会衆・ネット配信で行われています。最初の緊急事態宣言解除以降、ミサの再開に当たっては参加できるのは山手教会信徒限定、最多60人程度の人数制限、事前登録による申し込み制とし、聖堂の入場に際しては検温、参加者名簿のチェック、手指のアルコール消毒といった今まで経験したことのない、ものものしい姿になっていますが、これらを担当するスタッフをミサ案内係と称しています。もともとミサ案内というのは日曜日に限ってはコロナ禍以前から存在しており、初めて教会に来られた方をご案内する“教会案内”と聖堂内の見守りと奉納行列や聖体拝領時のアシストを行う“聖堂案内”があり、互いに連携しながら活動していました。

コロナ禍におけるミサ案内係は従来のものとはやや状況が異なり、上記のように信徒や見学の方の聖堂への入場を制限しなければならないという役割を担っています。現在の案内係は土曜夜、日曜朝、日曜昼と主日ミサ3回をそれぞれグループに分かれ行っています。土曜日は大体16時頃に受付の準備を開始、日の短い冬は、まさに夜ミサの雰囲気そのものです。この時間は見学者も多く、ミサの参加ができない分、できるだけミサの開始近くまで見学できるよう配慮しています。日曜日の朝はスタッフの集合は6時45分。夏は爽やかで気持ちよかったです。冬は寒くて大変です。信徒の参加数は昼より朝の方が多いため特徴です。日曜

日の昼は11時から受付を開始。それ以前に来られた方は一旦中に入ってお待ちいただくこともあります。見学者の受け入れは、受付開始時に一旦中止としミサ後に再度来ていただくようご案内しています。見学者の中には気軽に立ち寄る方もいますが、ときにはかなり真剣に興味を持って来られる方もいますので丁寧な説明を心掛けています。ミサ終了後には聖堂内の椅子のアルコール消毒(毎週)と床の清掃(隔週)を行うのも日曜昼スタッフの仕事になっています。

なお、コロナ第2波の頃までは当日の参加人数次第では他教会の信徒の方も含め当日の飛び入り参加を容認するまで制限も緩和傾向にありましたが、第3波の拡大により、現在は、また当初のように名簿に名前のある方以外の参加はできなくなってしまいました。

山手教会は信徒にとっては司教座教会、一般の方にとっても山手地区のランドマークとしてキリスト教の最も開かれた窓口です。本来なら誰でも自由に参加できるミサで入場規制を行うのは本当に心苦しいことで、早く本来の姿に戻ってくれることを切に願ってやみません。

土曜夜ミサ
案内スタッフ
(B)グループ日曜朝ミサ
案内スタッフ

日曜昼ミサ案内スタッフ

(岡崎芳浩)

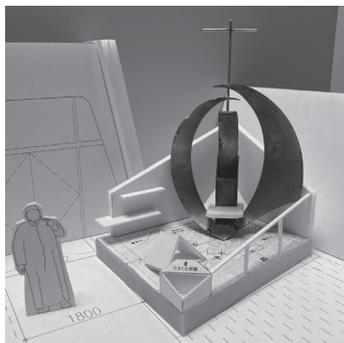
合葬墓建設の進み具合について

昨年来進めております山手墓地の合葬墓建設計画に関して、現在までの進み具合についてご報告いたします。これまでの最大の難関でありました、横浜市役所に対する一連の手続きがすべて終わり、横浜市長から2021年1月20日付けで「墓地区域等変更許可通知書」がカトリック横浜教区長宛に交付されました。

振り返ってみますと、合葬墓を納骨堂の前庭に建設することが最善の策と思われていたにもかかわらず、かつて（1975年頃）納骨堂を建てるためにその場所を「墓地」でなくする手続きをとらざるをえなかったため、その場所に合葬墓を作ることは諦めておりました。

しかし、合葬墓建設のご要望は日ごとに増し、墓地委員会としても可能性を探り続けておりましたが、事務所の新井田さんが不動産の事情に詳しく、納骨堂前の場所に合葬墓を建設することについての可能性を信じ、「ひと肌脱ぐ」決意を持たれたのが幸いして、司教様も推しておられる現在の案の実現への道が開かれました。市役所に足繁く通い、墓地全体の測量を行い、住民説明会を4回にわたり実施するなどのご苦勞が実り、この度の許可書の交付を見たわけです。

これからは、いよいよ建設工事です。計画・設計をお願いしてきたスタジオスプリング一級建築士事務所代表の石原さんは、他教会の合葬墓も手掛けられ信頼のおける建築士さんです。これから始まる建設業者の選定作業もうまく運びますよう、皆でお祈りしたいと思います。



左奥に納骨堂入口。

3枚の帆のようなものは9ミリ厚のステンレス製。

(墓地委員会 委員長 村田隆裕)

教会委員会より「お知らせ」

緊急事態宣言が延長されたことを受けて、引き続き宣言が解除される3月7日まで一般信徒が参加するミサは行いません。

灰の水曜日のミサも宣言発出中のため奉仕者と一部の教会委員だけで行います。9時30分（英語）、11時30分（日本語）をそれぞれ動画配信します。

2月21日（日）四旬節第一主日は入信志願式を行う日ですが、コロナ禍の今年は教区で集まることができないため、各小教区で行います。山手教会でも四旬節第一主日のミサで志願式を行いますので、その日のミサは志願者と代父母が参加します。

四旬節に入ってから緊急事態宣言発出中は、十字架の道行は行いません。宣言が解除された後も人数を10人までとし、主日ミサと同じように有志による事前の名簿作成、検温、消毒、換気などのコロナ対策をすることを条件に行います。

緊急事態宣言が解除された後は、宣言発出前と同じように事前登録している各時間のA、Bグループによる隔週のミサを再開します。原則として宣言が解除された次の主日から宣言前と同じミサを再開しますが、教会から個別に連絡しますので、それまでは、お待ちください。

聖週間については、3月の教会委員会で検討する予定ですが、復活徹夜祭は昨年の聖母被昇天ミサと同じように、洗礼志願者と代父母だけで参加者が多数になることが予想されるため、一般信徒のミサの参加ができない可能性があることを予めご了承ください。

一般信徒が参加するミサが再開された後も、高齢者の重症化、介護施設でのクラスター発生など、ご自身が医療を逼迫させる原因にならないよう、ミサへの参加は慎重になさってください。

(典礼委員会 委員長 小倉 謙)

2021年1月度教会委員会議事録

日時：2021年1月10日(日) 13:00～15:30

場所：教会ホール

議事内容（議事進行：太田委員長）

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1)緊急事態宣言発出による1月16日以降のミサと教会活動について

- ・他の教会は、すでに会衆無しで行っているところもあり。
- 16日(土)以降、会衆無しとする。
- 会衆無しのミサは、緊急事態宣言が発出している期間とし、以降は状況を見て判断する。
- この期間は、聖堂への立ち入りを制限する。
- ミサのライブ配信は、主日9:30(英語) 11:30(日本語)を継続する。
- 会衆を入れてのミサについては、状況を見て改めてアナウンスを行う。
- 冠婚葬祭や幼稚園による使用については個別に対応する。
- 教会活動について、入門講座、鈴木真師の講座等については当面見合わせ。
- 「せせらぎ祈りの集い」については中止の要請を行う。
- ロザリオ会ミサ、平日ミサについては中止。
- その他会議室等の予約情報からお断りする。
- 墓地委員会、修繕委員会については、感染防止策を徹底の上実施。
- その他緊急の決議が必要な事項については、鈴木真師と三役で協議する。
- 灰の水曜日については、2月の教会委員会で協議する。
- 枝の回収については、事務所前にて行う。
- 事務所の受付時間は、通常通りとする。
- ミサの変更に関する情報は登録者については、個別に連絡。
- その他、メール、ホームページから一斉配信する。

(2)2021年信徒大会について

- ・昨年の収支、今年度の予算について着手した。
- ・現状、12月の収支が確定しておらず昨年度の収

- 支が固まっていない。20日ごろ確定の予定。
 - ・通常2月第2週に信徒大会を行っているが、今年は資料の配布のみとする。
 - ・最終的には、2月の教会委員会で決定する。
- (3)他、各会から
- ・報告事項等なし。

2 活動報告事項

- (1)クリスマスと年始のミサについて
- ・普段来ない人を優先した。
 - ・24日の夜半のミサでは、事前登録の無い方が数人来られたがトラブルは起きなかった。
 - ・人数が少なく寂しい感じではあったが問題なくミサが行われた。
 - ・英語のミサに事前登録なしで日本人が参加したとの情報があった。25日も同様に発生していたとのこと。入場制限下においては、このような問題も起こりがちであることから聖堂の門を閉めることも今後の対応として考える。
- (2)教皇来日公式記録DVD頒布について（事務所）
- ・来日DVDが頒布され（献金に対して配布）教会として2部を申し込んだ。
 - ・本件に関するお知らせのコピーを聖堂に配置。申込期間は2月末まで。
 - ・6000円以上の献金でDVDが頒布される。

3 主任司祭から

- ・小教区を超えた青年の活動に関しては、ネットミーティングとなった。
- ・聖公会との合同祈祷会は、それぞれからオンラインで行う。24日16時から（司教様含めて3人）で聖堂から発信する予定。

4 次回教会委員会

2月7日(日) 12時30分から(16時終了予定)。
(総務担当 宮裕一)

2021年2月・3月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

主 日	聖 歌					聖歌隊	時 間	奉 仕 者				ミサ割当
	ミサ曲	入祭	奉納	聖体拝領	閉祭			オルガン	先 唱	聖書朗読		
2月21日	四旬節 第一主日	<p>【2021年2月7日決定】</p> <p>政府の緊急事態宣言が延長されたため、宣言が解除される予定の3月7日までミサに一般信徒は参加できません。</p> <p>右の表は宣言解除が早まった場合のために掲載しますが、教会から再開のお知らせがあるまで一般信徒が参加するミサは行いません。</p> <p>宣言が解除された後は宣言発出前と同じグループで各時間のミサを再開する予定です。</p>					前日pm5:00	村 松	山本(康)	中島(晶)	志 村	夜ミサB
							7:30	渡 邊	末 澤	松 村	阿 部	朝ミサB
							11:30	中 川	曾 禰	大 島	上 田	昼ミサB
28日	四旬節 第二主日						前日pm5:00	忠 海	田中(麻)	佐藤(篤)	阿 部	夜ミサA
							7:30	大 田	亀 井	加 藤	山 本	朝ミサA
							11:30	手 塚	藤原(ま)	川 田	鈴木(理)	昼ミサA
3月7日	四旬節 第三主日						前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	島 田	夜ミサB
							7:30	手 塚	石川(喜)	古谷(信)	二 宮	朝ミサB
							11:30	米 沢	佐藤(篤)	後 藤	柳 川	昼ミサB
14日	四旬節 第四主日						前日pm5:00	藤 沼	斎 藤	鈴木(明)	福 田	夜ミサA
							7:30	中 川	二 宮	大濱(学)	大濱(美)	朝ミサA
							11:30	佐 藤	遠 藤	佐藤(日)	紀國谷	昼ミサA
21日	四旬節 第五主日						前日pm5:00	村 松	山本(康)	中島(晶)	志 村	夜ミサB
							7:30	渡 邊	末 澤	松 村	仁井田	朝ミサB
							11:30	米 沢	村田(義)	大 島	上 田	昼ミサB
28日	受難の主日 (枝の主日) (11:30 ミサでは) 雨天でなければ 枝の行列を行う)	前日pm5:00	忠 海	田中(麻)	旧約. 佐藤 福音C. 未	書簡. 櫻井 福音A. 未	未定					
		7:30	太 田	亀 井	旧約. 加藤 福音C. 未	書簡. 山本 福音A. 未						
		11:30	中 川	藤原(ま)	旧約. 川田 福音C. 未	書簡. 鈴木 福音A. 未						

(注) ・当分の間、ミサ中の聖歌は歌われません。
・子どもと共に捧げるミサもありません。

編 集 後 記

ヨゼフ会会員の皆様へ

昨年は、コロナ禍のため会の活動がほとんどできませんでした。依然、厳しい状況が続いていますので総会は中止とし、今年度は会費を徴収しないことにいたしました。一日も早く平穏な日々の到来を祈ります。

(ヨゼフ会 会長 岡崎芳裕)

ロザリオ会会員の皆様へ

昨年は、コロナ禍によりロザリオ会は、ほとんど活動ができませんでした。ですから、今年度は会費を徴収しないことになりました。3月中にロザリオ会のいつものお知らせをお送りいたします。今年度は、皆様と共に教会の仕事を分かち合えたらと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(ロザリオ会 会長 山本紀志子)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。